

# 保育所・幼稚園における「障害のある」子どもおよび、「気になる」子どもの活動参加に関する調査研究 (2)

## — 「運動会」の一連の活動を対象に —

### An Investigation for Activity Participation on Children with Special Needs in Nursery School and Kindergarten (2)

#### — Focusing on Supports at Athletic Festival —

高倉 誠一    佐藤 慎二    広瀬 由紀    植草 一世    中坪 晃一

**要旨：**保育所・幼稚園に在籍する「障害のある」子どもおよび、「気になる」子どもの活動参加のために必要な支援条件を検討するために、C県全ての保育所・幼稚園を対象に、運動会の一連の活動における子どもの様子と支援について調査を実施した（回収率37.6%）。

本報告では、上記調査の中から、子どもの様子に関する結果を取り上げて報告する。

調査の結果、「障害のある」子ども、「気になる」子どもを含めた特別な支援や配慮を必要とする子どもが在籍していると回答した保育所・幼稚園は全体の72.5%であった。「最も」特別な配慮を必要とする子ども1名に絞った場合には、「障害のある」子どもとした保育所・幼稚園は50.0%、「気になる」子どもとした所・園は40.5%であった。練習期間の様子では、「障害のある」子どもと「気になる」子どもでは、後者が「トラブルやパニック」の項目で選択率が高かったが、「活動の理解」「見通し」「所属や待機位置理解」の項目では大きな差がなかった。このことから、「障害のある」子どもと「気になる」子どもが示す困難は共通する部分もあり、参加への支援として共通する手立てを検討できることが示唆された。

**Key Words：**保育所、幼稚園、「障害のある」子ども、「気になる」子ども、運動会、支援条件

## I 問題と目的

近年、保育者への質問紙調査により軽度発達障害の子どもや「気になる」子どもへの支援内容や支援体制を検討する試みが多く報告されている<sup>1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 9)</sup>。先に筆者らは、先行研究の課題として以下を指摘した<sup>8)</sup>。①調査対象としての幼稚園総数の少なさ－前述の先行研究で回答した幼稚園数は累計でも27カ所である。また、保育所と幼稚園で、結果に差異が見いだせるのか否か明らかではない。文部科学省による特別支援教育推進体制モデル事業に幼稚園も加えられていることを踏まえれば、幼稚園における「気になる」子どもの様子の把握と支援の検討が求められよう。②「気になる」子どもの判断基準として行動の特徴や目録を示すことへの疑問－質問紙調査に行動目録を示すことにより、「気になる」側面を子どもの個人属性として示唆し、強調しかねない。例えば、「困っている行動」という観点を示すことにより、回答者（すなわち現場の保育者等）の子どもへの見方を固定化する恐れがある。あるいは、回答者に何らかの「障害」を示唆し、対象の子どもやその保護者に不利益を与えかねないという課題が潜在している。③調査対象となる子どもの様子の明確化－実際の日々の保育・活動では、「気になる」子どもだけではなく、「障害のある」子どもも含めての支援が求められているであろう。しかし、多くの先行研究は、「気になる」子どももしくは、「障害のある」子どもどちらかを対象としており、「気になる」子どもを対象とした場合、そこに「障害のある」子どもを含んでいるかどうか不明であった。④「気になる」背景としての支援条件の検討の不十分さ－どのような環境要因・支援条件の下での「気になる」という評価になっているのか不明であり、具体的な支援方法を導く上で限界がある。先行研究に共通する最も大きな課題と考えられる。

そこで筆者らは、「障害のある」子どもと「気になる」子どもを、特別な支援を必要とする子どもととらえ、保育所・幼稚園における保育内容・活動への当該児の参加に向けての支援を検討することを目的に、C県全域の全ての保育所・幼稚園を対象に、主要行事である「運動会」の活動を取り上げ、当該児の様子と支援の取り組みを質問紙調査により明らかにすることを試みた。

質問紙調査にあたっては、医療機関等でなんらかの診断を受けている「障害のある」子どもと、障害の認定は受けていない「気になる」子どもの在籍状況を確認する。その上で、運動会の参加に際し「最も」特別な支援や配慮を必要とする子どもを一人取り上げ、その子どもの様子とどのような支援を行ったかを質問した。また、研究方法上の課題として示した②の観点から、詳細な行動目録の条件を設定せずに、調査を実施した。

小論では、質問紙調査の内容と、調査で明らかになった「障害のある」子どもと「気になる」子どもに関する結果を示すともに、本研究の今後の方向性について報告する。

## II 方 法

### 1. 調査対象と調査期間

C県内全ての保育所（678カ所）と幼稚園（591カ所）合わせて1269カ所に質問紙を郵送した。調査用紙は2006年2月20日に配布し、3月末日までに返信用封筒にて回収した。回収率は477カ所（37.6%）であった。回答の内訳は保育所277カ所（58.1%）、幼稚園184カ所（38.6%）、不明16カ所（3.4%）であった。

### 2. 調査内容

#### (1) 調査対象の概要について

記入者、保育所・幼稚園の別、公立・私立の別、在所（園）児数、クラス編成の形態（年齢別／混合）。

#### (2) 平成17年度の運動会全般について

運動会の有無、開催月、導入時期、開催場所。

#### (3) 「障害のある」子どもと「気になる」子どもの在籍状況について

それぞれの在籍の有無と人数（対象基準は、前者が「医療機関でなんらかの診断を受けている子ども」、後者が、「①調査時点で、なんらかの障害があると診断されていない子どもで、②その年齢のできれば誕生日が近い同姓の子どもと比べて、③複数の保育者から見て、なんらかの配慮や支援が必要と考えられる子ども」）。

#### (4) 運動会への参加に最も特別な支援や配慮を必要とする子ども1名について

①その子どもの内訳－「障害のある」子どもの場合は障害種別（選択）、「気になる」子どもの場合はふだんの様子（記述）、②その子どもの年度当初の年齢、③その子どもの在籍年数、④その子どもの運動会に向けた活動（練習等）の期間の様子（選択）、⑤運動会当日のその子どもの様子（選択）。

#### (5) その子どもへの支援や配慮等について

①その子どもへの支援や配慮（記述）、②有効だった手立て、不足していた手立て（記述）。

なお、調査票については、巻末を参照。

## III 結果と考察

小論では、上記調査内容から、「障害のある」子どもと「気になる」子どもに関する結果<上記調査内容の(3)及び(4)>を取り上げ、若干の考察を行なう。

## 1. 「障害のある」子どもの在籍状況

回答のあった保育所・幼稚園477カ所の内、「障害のある」子どもが在籍していると回答したのは254カ所（53.2%）、在籍人数は590人であった。1カ所あたりの平均当該児数は、2.3人。最小－最大値は、1－13人であった。回答のあった保育所・幼稚園の在籍児総数（59,432人）に占める当該児数（590人）の割合は、1.0%である。

「障害のある」子どもの在籍状況を保育所・幼稚園別に見ると、保育所における在籍は、163カ所（58.8%）、幼稚園は82カ所（44.6%）であった。保育所の方が在籍率がやや高い。在籍児数で見ると、保育所は357名、幼稚園が210名である。前者は、1カ所あたり平均は2.2人、最小－最大値は、1－13名である。後者は同様に平均2.6名、最小－最大値は1－9名である。在籍率で見れば保育所の方が高いものの、1カ所あたりの在籍児数は、幼稚園の方がやや多い結果となった。幼稚園では、特定の園で「障害のある」子どもを受け入れる傾向があることが示唆される。

## 2. 「気になる」子どもの在籍状況

回答のあった保育所・幼稚園477カ所の内、「気になる」子どもが在籍していると回答したのは285カ所（59.7%）、在籍人数は921人であった。1カ所あたりの平均当該児数は、3.2人。最小－最大値は、1－19人であった。回答のあった保育所・幼稚園の在籍児総数（59,432人）に占める当該児数（921人）の割合は、1.5%である。

「気になる」子どもの在籍状況を保育所・幼稚園別に見ると、保育所における在籍は、172カ所（62.1%）、幼稚園は102カ所（55.4%）であった。保育所の方が在籍率がやや高い。在籍児数で見ると、保育所は584名、幼稚園が311名である。前者は、1カ所あたり平均は3.4人、最小－最大値は、1－19名である。後者は同様に平均3.0名、最小－最大値は1－15名である。保育所の方が、当該児の在籍率も1カ所あたりの在籍児数もやや多い結果となった。

## 3. 運動会への参加に関し、最も特別な支援や配慮を必要とする子どもの様子

運動会の参加に関して、特別な支援や配慮を必要とする子どもが在籍していると回答した保育所・幼稚園は346カ所（72.5%）であった。「最も特別な支援や配慮を必要とする子ども1名」については、「障害のある」子どもとしたのは173カ所（50.0%）、「気になる」子どもとしたのは140カ所（40.5%）であった。運動会への参加に際し、障害の有無等にかかわらず、どの子どもも配慮を必要としていることは前提であるが、最も支えを必要としている認識されているのは、「障害のある」子どもの方が高い結果となった。

「障害のある」子どもの障害内訳については、表1に示す。障害種別は複数選択できるようになっており、1カ所あたり1.4項目選択していることから、複数障害をもつ子どもも少なく

表1 「障害のある」子どもの障害内訳（複数回答）

	選択数	%
総 計	242	139.9
a. 知的障害	61	35.3
b. 肢体不自由	37	21.4
c. 聴覚障害	1	0.6
d. 視覚障害	8	4.6
e. 言語障害	21	12.1
f. 病弱・虚弱	6	3.5
g. 注意欠陥／多動性障害（ADHD）	19	11.0
h. 学習障害（LD）	4	12.3
i. 自閉症	43	24.9
j. 高機能自閉症（HFA）、アスペルガー症候群	20	11.6
k. その他	22	12.7

※複数回答のため、%は回答のあった保育所・幼稚園173カ所を母数として算出。

ないことが推察される。障害として最も多い上位3位は、「知的障害」、「自閉症」、「肢体不自由」であった。障害として、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、高機能自閉症（HFA）、アスペルガー症候群も少なくなかった。

「気になる」子どものふだんの様子（記述式）を整理したものを表2に示す。回答は大きく発達面の遅れに関することと、行動面の問題に触れる内容が多かった。

最も特別な支えを必要とする子どもの内訳と年齢を図1に示す。「気になる」子どもについては、3～5歳がほぼ均等に構成されるのに対して、「障害のある」子どもでは年齢が上がるにつれて構成比が大きくなっている。これは、同年齢の子どもと比較して発達等の遅れが目立つようになる（支えが必要になる）ためと考えられる。

#### 4. その子どもの運動会に向けた活動（練習等）の期間の様子について

最も特別な支援や配慮を必要としている子どもの運動会に受けた活動（練習等）の期間の様子については、選択肢（「a. 活動自体が分からない様子」「b. 見通しがもてない様子」「c. 所属等がわからない様子」「d. トラブルやパニックなど落ち着かない様子」と記述（「e. その他」）を組み合わせず質問を設定した。「障害のある」子どもと「気になる」子どもで分類した結果を図2に、「e. その他」の記述を整理したものを表3に示す。a.～d.の項目で顕著な差があったのは、「d. トラブルやパニック」の項目であり、「障害のある」子どもの方が選択率が低く、「気になる」子どもの方が明らかに高い結果となった。一方、他の項目では、極端な差はなかった。このことから、「障害のある」子どもと「気になる」子どもが示す困難は共通していることが少なくないことが予想される。運動会への参加支援について、「障害の

表2 「気になる」子どものふだんの様子

< I. 発達面が一部あるいは全般に遅れている >

- ・ 同年齢の子どもとの比較では遅れている。個人差というレベルではないように感じる。
- ・ ことばが少ない。1対1で話し、次の活動を知らせるなど配慮が必要。
- ・ 体力的に遅れているので、鉄棒や跳び箱など配慮が必要。

< II. 行動面の問題 >

- ・ 自分の嫌いなことをするときや場面が変わるとき、気分によりパニック状態になる。
- ・ 特定の子どものトラブルは絶えないが、大人との関係はとることができる。
- ・ 行動がやや多動である。
- ・ 話し言葉や行動が乱暴である。
- ・ 一人遊びが中心である。
- ・ 集団活動が苦手である。
- ・ 音に敏感で、大きい音が苦手。
- ・ 落ち着かず、席に座ってられない。
- ・ こだわりが強く、いつもと違うパターンになるとパニック状態になる。
- ・ 気分にもラがある。気分のよいときは明るい。
- ・ 自分の思いが通らないと突然手をあげ、友達をたたくことがある。
- ・ 教師や友達のいうことをオウム返しに言うことが多い。
- ・ 周りの友達のしていることは気にならないようで、ボーっとしている。
- ・ 活動への意欲がうすい。
- ・ 常に保育者にまわりついている。

※代表的な記述を例示（重複する記述は記載していない）

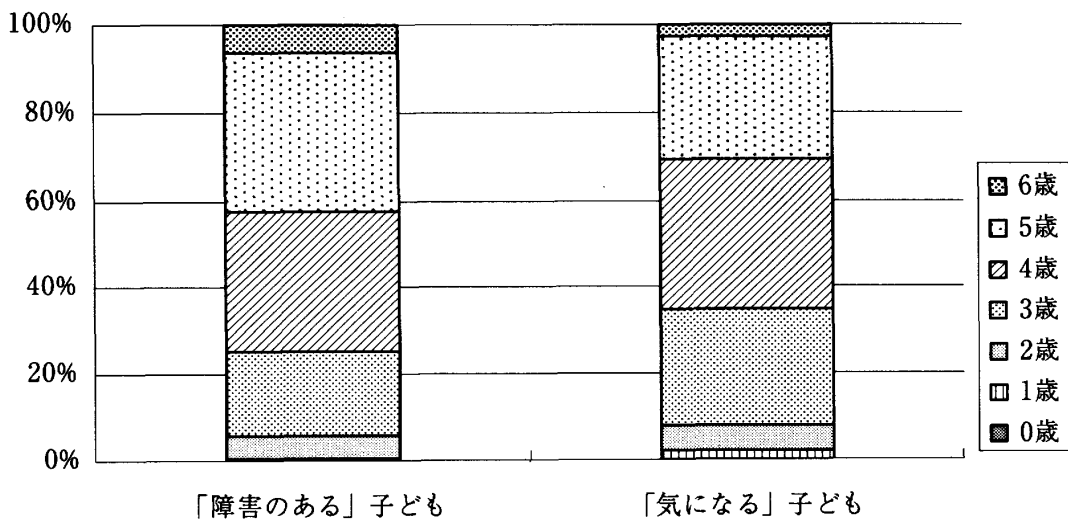


図1 最も特別な支援等を必要とする子どもの内訳と年齢

表3 練習期間の様子「e. その他」の記述内容

- ・練習では、参加する種目と遠くから見ている種目があったが、当日は保育士と楽しく参加できた。
- ・ダンスなど音楽活動が好きなので、友達や保育士の様子を見ながら参加していた。
- ・肢体不自由があるが、自分から身体を動かし、積極的に友達と関わろうとする姿が見られた。
- ・皆と同じ行動をするのを嫌がり、座り込んで泣いてしまうことがあり、その場から動けなくなる。
- ・ダンスなど曲にあわせて体を動かすことは喜んでできたが、皆と一緒にではなく、一人離れた場所で行うことができた。
- ・活動には積極的に取り組むが、順位にこだわり、1番になれないと激しく泣く。
- ・その時の気分で気が向かないと参加できない。
- ・積極的に参加する意欲があるものの、集中力がないため、すぐ飽きてしまう。
- ・自分の出番がない時、待つことができない。
- ・友達とのちょっとしたトラブルやうまく踊れないときなど、怒ってその場から立ち去ってしまう。
- ・初めは、大勢の子どもがいる場に行くだけで泣いたり、マイクの声に驚いて保育士にしがみついたりしていたが次第に慣れていった。
- ・一緒に覚えよう、やろうとする姿があるが、待つことができない。
- ・短時間でも集中して練習ができなかった。
- ・周りの子どもたちの手助けで一緒に参加できた。その子のおかげで、クラスの子の団結力が強まった。
- ・マスゲームにはとても興味をもって取り組んだが、「かけっこ」等では興味を示さなかった。
- ・整列することも苦痛な様子で、一番前に並びたがる。
- ・負けることが嫌で、友達を応援することはあっても、参加しない。
- ・興奮して、園庭中を駆け回る。興味をもつと他の学年の演技や競技に参加する。

※代表的意見を例示（重複する記述は掲載していない）

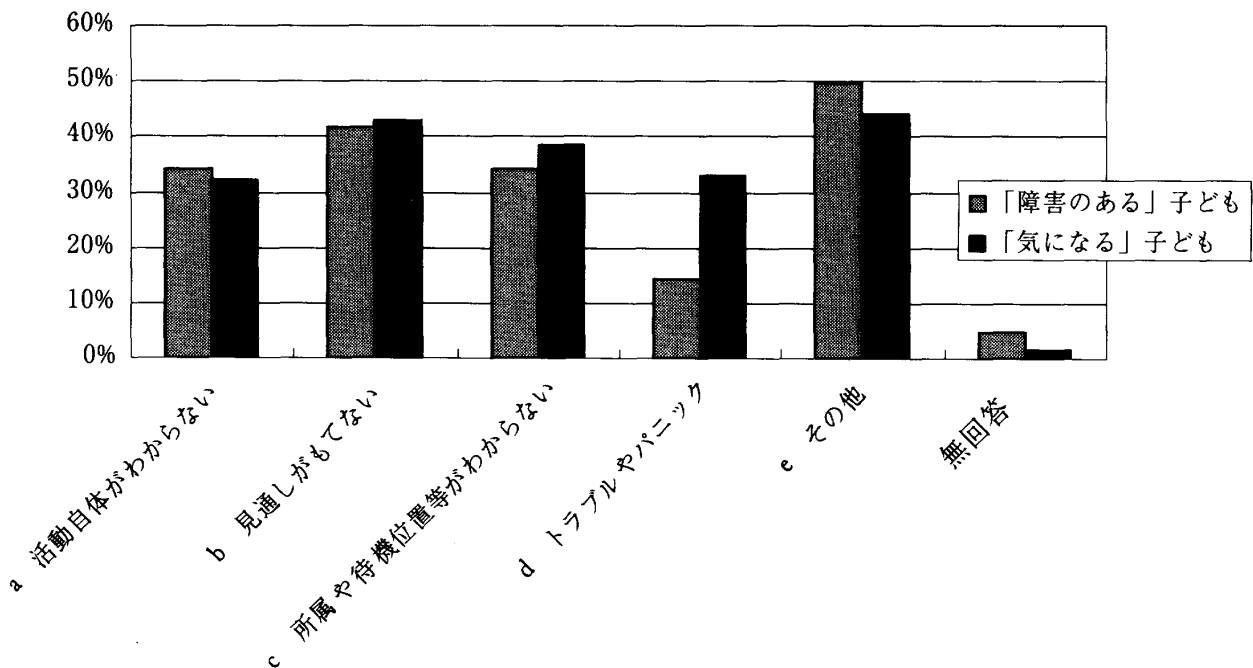


図2 練習期間の様子（複数回答）

ある」子どもと「気になる」子どもを対象とした手立てが共通する部分も少なからずあると言える。活動内容や見通し、組み分け等所属や待機位置等をわかりやすくすることなどにより、どの子どもにとっても参加しやすい運動会を生み出す余地があることが示唆されていると考える。

記述からは、子どもの様子を見取りを変えることにより、スムーズな参加に向けての支援ができる余地があることが推察される。例えば、「整列することも苦痛な様子で、一番前に並びたがる」という記述からは、「前後左右の位置・順番の把握が苦手なので、わかりやすい最前列に並びたがるのではないか。むしろ、一番前で固定した方がよい」と考えることもできるであろう。また、「ダンスなど曲にあわせて体を動かすことは喜んでできたが、皆と一緒にではなく、一人離れた場所で行うことができた」という記述からは、「一緒にやりたい気持ちはあるが、遅れたり失敗したりするのが嫌で離れているのではないか。ダンスの中で、皆がそろって踊る場面と、自由に踊る場面を組み合わせてみてはどうか」といった対応も検討できるであろう。

一方、当然のことながら、子どもの様子を見取りを変えるだけでは、参加が困難であろう記述も多く見られる。

子どもの様子と対応の検討については、「(5)その子への支援や配慮等」の結果も含めて、報告したい。

#### IV おわりに ー今後の方向性ー

本研究の目的は、支援条件の検討にある。本稿では、調査結果の中から、子どもに関する部分だけ取り扱ったが、大人側、すなわち、保育者の運動会への参加に向けての配慮や支援についても記述式で回答を求めている。保育者の努力や手立てが多く寄せられている。この回答の処理と分析を進めるとともに、質問紙調査で得ることのできない詳細状況を把握するために、協力が得られた保育所1ヵ所、幼稚園4ヵ所を対象に、面接調査（インタビュー）を実施している。これらを総括し、機会を得て報告したいと考える。

#### 謝 辞

本調査にご協力くださいました保育所・幼稚園の皆さまに心よりお礼申し上げます。なお、本研究は、平成17～18年度植草学園共同研究助成金の援助を受け実施した。

#### 文 献

- 1) 芦澤清音・五十嵐元子・浜谷直人（1999）：保育において「気になる子」のタイプとその発達援助（2），日本発達心理学会10回大会発表論文集，382.
- 2) 千葉大学教育学部附属養護学校（2002）：実践 生活中心教育．学習研究社，19-22.



- 3) 五十嵐元子・芦澤清音・浜谷直人 (1999) : 保育において「気になる子」のタイプとその発達援助 (1), 日本発達心理学会10回大会発表論文集, 381.
- 4) 本郷一夫・澤江幸則・鈴木智子・小泉嘉子・飯島典子 (2003) : 保育所における「気になる」子どもの行動特徴と保育者の対応に関する調査研究. 発達障害研究, 25(1), 50-61.
- 5) 平澤紀子・藤原義博・山根正夫 (2005) : 保育所・園における「気になる・困っている行動」を示す子どもに関する調査研究. 発達障害研究, 26(4), 41-51.
- 6) 岩立京子・竹田小百合・吉田真弓 (2001) : 保育者がとらえた幼児の気になる行動及び保育者の対応について. 日本教育心理学会43回総会発表論文集, 626.
- 7) 金田利子・今泉依子・青木 瞳 (2000) : 集団保育において「気になる」といわれている子の実態と対応. 日本特殊教育学会第38回大会発表論文集, 387.
- 8) 西澤直子・上田征三・高橋 実 (2003) : 保育所における「気になる子ども」の実態と支援の課題, 日本特殊教育学会第41回大会発表論文集, 745.
- 9) 佐藤慎二・高倉誠一・広瀬由紀・植草一世・中坪晃一 (2006) : 保育所・幼稚園における「障害」のある子どもおよび, いわゆる「気になる」子どもの活動参加に関する調査研究 (1) - 「運動会」における支援を中心にして -. 植草学園短期大学紀要 (第6・7合併号), 1 - 9.
- 10) 高橋 実・西澤直子・上田征三 (2003) : 保育所における「気になる子ども」の実態と支援の課題 (2), 日本特殊教育学会第41回大会発表論文集, 746.

### 「運動会」における子どもの活動参加に関する調査へのご協力をお願い

時下、ますますご清勝のことと存じます。

近年、保育の場で、障害のある子どもだけでなく、生活や活動の参加に特別な配慮や支援が必要な子ども（いわゆる「気になる子ども」）が注目され、その子どもたちへの配慮等について、実践的・具体的な検討が求められるようになってきました。

このような状況を踏まえ、「運動会」を例に、その子どもたちへ、いかに配慮・支援されているか、その取り組みを教えてください、本調査を実施させていただきます。

お寄せいただいた回答は、とりままとめて後日、報告書にしてご報告いたします。

つきましては、ご多忙の折お手数をおかけしますが、なにとぞ調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

#### 記

1. 調査目的 障害児および、いわゆる「気になる子」の運動会への参加に向けて、保育の場で実際になされている配慮や支援等の具体的取り組みを収集する。
2. 調査対象 千葉県内全ての保育所・幼稚園
3. 調査方法 無記名によるアンケート方式
4. 調査期間 平成18年2月20日～3月17日
5. 結果の取り扱いについて
  - ・この調査は、全て無記名で行います。個人等が明らかになることはありません。
  - ・この調査で得た結果は、研究活動のみに使用し、上記趣旨以外の目的で用いることはありません。
6. お願い事項
  - ・記入は、どなたでも構いません。
  - ・アンケートにご記入の上、同封の封筒にて3月17日（金）までにご送付ください。
7. その他
  - ・この調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

植草学園短期大学 高倉 誠一  
〒264-0007 千葉県千葉市若葉区小倉町1639-3

### 「運動会」における子どもの活動参加に関する調査

—障害児および、いわゆる「気になる」子どもの活動参加を支援するために—

#### < 調査票 >

##### 調査趣旨・目的

障害児および、いわゆる「気になる」子どもの運動会への参加に向けて、保育の場で実際になされている配慮や支援等の具体的取り組みを収集する。

##### 調査で得た情報の取り扱いについて

- ・この調査は、全て無記名で行います。個人等が明らかになることはありません。
- ・この調査で得た結果は、研究活動のみに使用し、上記趣旨以外の目的で用いることはありません。

##### 記入上のお願

1. 運動会に関する質問は、全て平成17年度に開催された運動会が対象です。  
平成17年度に開催された運動会を振り返ってご記入ください。
2. 選択肢の回答は、あてはまるもの、最も近いものに☑のように、印をつけてください。複数選んでもよい質問には、<複数回答可>の表示があります。
3. 質問はQ1～Q17の計17問です。障害児および、いわゆる「気になる」子どもが在籍していない場合でも、Q1～Q8の質問に回答していただければ幸いです。

**I. 貴所（園）の概要に関して**

Q1 このアンケートに記入される方は、以下のどれにどれにあたりますか。あてはまるものに印をつけてください。

- a.  所（園）長    b.  主任    c.  担任  
d.  その他

Q2 保育所・幼稚園の別と、公立・私立の別について、あてはまるものに印をつけてください。

- 保・幼の別→ a.  保育所（園）    b.  幼稚園    c.  総合施設  
公・私別の別→ a.  公立    b.  私立

Q3 在所（園）児数の合計をご記入ください。 計  名

Q4 クラス編成について、あてはまるものに印をつけてください。

- a.  年齢別に編成  
b.  年齢別のクラスに加えて、混合（縦割）クラスを設けている。  
— 混合（縦割）クラスの編成について、混合年齢ごとに  のように **囲んで** ください。  
0歳    1歳    2歳    3歳    4歳    5歳    6歳

**II. 運動会全般に関して**

\*以下全て、平成17年度に開催された運動会について記入してください。

Q5 貴所（園）の年間計画の中で、当初から「運動会」の計画はありましたか。

- a.  あった    b.  なかった — よろしければ、理由をご記入ください。

Q6 運動会が開催された月をご記入ください。

平成17年  月

Q7 運動会を意識した活動が始まるのは、およそどのくらい前からですか。

- a.  およそ  ヶ月くらい前から  
b.  およそ  週間前から  
c.  ふだんの生活・活動の積み重ねなので、運動会を意識した活動は特に行っていません。  
d.  その他

Q8 「運動会」を開催する場所はどこですか。

- a.  自所（園）敷地内    b.  近くの小学校や公園等  
c.  その他

**Ⅲ. 運動会への参加に特別な配慮や支援が必要だった子どもに関して**

Q9 貴所（園）には、医療機関等で何らかの診断を受けている障害のある子どもは在籍していますか。

- a.  在籍している    b.  在籍していない  
— 障害のある子どもは何名在籍していますか。  名

Q10 貴所（園）には、上記障害のある子ども以外に、以下の条件に該当する、いわゆる「気になる」子どもは在籍していますか。

1. 現時点では、なんらかの障害があると診断されていない子どもで、  
2. その年齢の（できれば誕生日が近い）同姓の子どもと比べて、  
3. 複数の保育者から見て、なんらかの配慮や支援が必要と考えられる子ども。

- a.  在籍している    b.  在籍していない  
— いわゆる「気になる」子どもは約何名在籍していますか。 約  名

Q11 貴所（園）で、運動会の参加に関して、特別な配慮や支援が必要な子どもは、障害のある子どもですか、それとも、いわゆる「気になる」子どもですか。最も特別な支援等が必要だった子ども1名に絞り、その子どもの障害・様子等をご記入ください。

障害のある子どもの場合：子どもの障害について、あてはまるものに印をつけてください。複数回答可。

- a.  知的障害    b.  肢体不自由    c.  聴覚障害    d.  視覚障害    e.  言語障害  
f.  病弱・虚弱  
g.  注意欠陥/多動性障害 (ADHD)    h.  学習障害 (LD)  
i.  知的な遅れのある自閉症    j.  高機能自閉症、アスペルガー症候群  
k.  その他

いわゆる「気になる」子どもの場合：その子どもは、ふだんどのような様子ですか。

Q12 上記の質問で挙げた子どもは、平成17年度当初何歳でしたか。(以下、「その子」と表記します)  
[ ] 歳

Q13 その子は、入所 (園) してから、何年目になりますか。  
[ ] 年目

Q14 その子は、運動会に向けた活動 (練習等) の期間、どのような様子でしたか。あてはまるもの  
印をつけてください(複数回答可)。あてはまるものがない場合、「e. その他」に、その子の様  
子を記入してください。

- a.  ダンス等の振り付け、あるいは、活動の内容がなかなか覚えられない様子。
- b.  活動の流れや順番に見通しがない様子で、周りの子ども様子をみて動いている様子。
- c.  組み分けや自分の所属、待機場所や応援席への移動等がなかなかわからない様子。
- d.  運動会の練習が始まると、友だちとのトラブルやパニックが多くなるなど落ち着かない様子。
- e.  その他 [ ]

Q15 その子の運動会への活動参加に向けて、どのような配慮や支援をされましたか。  
※種目・演目の工夫、運動会当日までの展開の工夫等、クラス (あるいは、学年や所園) 全体に  
及ぶ配慮や支援を、「1. 運動会全般に関すること」に、  
※その子への保育者による個別の配慮や支援を「2. その子への個別の配慮や支援に関すること」  
に、それぞれ記入してください。

1. 運動会全般に関すること

(例)・練習期間中、ふだんの生活と違うので落ち着かなくなりました。そこで、練習  
期間中、運動会に関わる活動を毎日同じ時間帯に展開できるようにしました。  
・リレーでは、足が遅く、どうしても遅れてしまうので、子どもたちで話し合い、そ  
の子が半周走り、残りを他の子が走るようにしました。

2. その子への個別の配慮や支援に関すること

(例)・保育者ができるだけその子の近くで、さりげなく応援するようなことを繰り返して  
いるうち、面顔見のよい子が保育者の姿をまねて、その子の世話をしてくれるよう  
になった。  
・運動会の流れ (種目・演目の順番等) がなかなか理解できず落ち着かなかつたので、  
絵カードでスケジュールを示したりした。

Q16 運動会当日の、その子の様子はどうでしたか。あてはまるものに印をつけてください。

- a.  大変よく参加できたように感じる。
- b.  その子なりに、よく参加できたように感じる。
- c.  どちらとも言い難い。
- d.  あまり参加できなかつたように感じる。
- e.  ほとんど参加できていなかつたように感じる。

Q17 その子の運動会での様子を踏まえて、どのような手立てが有効だった・あるいは不足していたと  
感じられましたか。

1. 運動会全般に関すること

2. その子への個別の配慮や支援に関すること

お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございました。  
お手数ですが、同封の封筒にて3月17日 (金) までにご返送ください。